

1998年9月20日 西表島大富林道

16時も回ったので帰路につく。最後の大きな下り急カーブで、昨年と同じ9月20日にシロオビヒカゲを偶然ネットインした林へと自転車を乗り入れる。ツマムラサキマダラが今回ほど多くなかった昨年でも、この林の奥には少なからずみられたからだ。最近ますます人が踏み込まなくなったのだろう。周りカヤ科植物の繁茂が深くセンダングサの花が少ないせいカスジグロカバマダラもほとんどいない。竹藪周辺にシロオビヒカゲもみられず。もうここは蝶にも嫌われる環境となってしまうのかと、帰ろうとしたそのとき。突然大きな黒いマダラチョウが頭上に現れる。マルバネリリマダラだ。どこにとまるか静観するしかないが、やがて落ち着いた場所は林はるか



奥の枯れ枝の間。このまま眠ってしまうのではないか、と思われる落ち着きようだ。めったに出会えない蝶だけになんとか飛ばしてみたく、叢の茂みをまさぐって路面の少ない小石を拾う。何度かびっくりしてくれてもいいような近くをかすめるがびくともしない。こうなれば近くの枝に命中させるしか

あるまい。より集中力を高めて小石を投げる。執念のこもった何投目かが明らかに音を立てて枯れ木のどこかに命中する。なんという幸運だろう。おどろいたマルバネがこちら側へと飛び出てくる。このときの飛翔はまさにおどろいたときのランダム飛翔であってネットインは容易ではない。しかしただ見ていたらそのまま飛んで逃げるのは明らか。とっさにとりあげたネットで両側樹林の枝葉に邪魔されながらも狭い空間の黒い動きを追う。それは瞬間に近いわずかな数秒というタイミングであったにもかかわらず、ラッキーにもマルバネリリマダラは緑のネットの中へと吸込まれるように入りこむ。なにもしなければ明日の朝まで動かなかったかも知れないマルバネを、

- 1) 近くの小枝に小石を命中させて飛び立たせ
- 2) 驚いた蝶が遠く向こう側ではなく手前側に飛び出し
- 3) ランダム飛翔中を一瞬の一振りでもネットでインできた

これら 1-3) がすべて望ましい展開となった奇跡以外のなにものでもない。しかも、この個体、左前翅が羽化段階からやや燐粉が薄い異常型ながら、ぜひとも欲しかった♂であって、さらには前翅水青色紋が亜外縁部だけでなくその内側 4、5、6 室にも小さ目の紋が二重に出ていて、あとで石垣島のオモト林道や竹富島で採れた♂には見られない特徴を有している。いずれにしてもあまりにいいことづくめで、帰路、自転車のペダルが実に軽い。



Sep. 20, 1998 西表大富林道

1998年9月22日 石垣島オモト林道

リュウキュウミスジが陽だまりで日光浴を楽しんでいる。ミカドアゲハの♀が産卵のための食樹確認の行動とも思える転飛を繰り返しながら林奥に消える。汚損体のクロアゲハやカラスアゲハがしきりと道を横切る。場所によってはヤエヤマムラサキ♂がテリトリーを張っている。いろいろな蝶の出現を楽しんでみると、クロアゲハをぴったりマークして追飛を繰り返すヤエヤマムラサキによく似た黒っぽい蝶が目に入る。この追飛は徹底的できわめてしつこい。滑空する時間

が長い点、ヤエヤマムラサキよりはマダラチョウに近い挙動である。なかなか静止しようとはしなく、クロアゲハがいなくなるまで樹林の隙間を縫うようにして戦闘機同士の空中戦さながらの激しい追飛が繰り返される。長い時間が経過して、ついにクロアゲハを遠く追い払うとようやくネットも届く位置の葉っぱに羽をひらいたまま静止する。なんとこの蝶、マルバネルリマダラではないか。左下からすくいあげて確実にネットイン。きれいな♂である。石垣島でも採れるとは予期していなかっただけにうれしいが、今回もマルバネルリマダラの自然状態を Video 記録することはできず。このマルバネルリマダラ♂翅表は大富林道で得た個体(p.1)に見られた前翅亜外縁内側の二重水青色紋がなく、のちに竹富島で採れた個体と良く似たタイプでこの両者の発生地は同一地域らしい。



1998年9月23日 竹富島

シロノセンダングサの花にシロオビアゲハやスジグロカバマダラが舞い、リュウキュウムラサキの♂がテリトリーを張る草道での蝶探索を堪能して場所を変えようかと大きい白い道に戻ろうとしたとき、突然黒っぽい蝶が頭上をかすめて舞い降りてきたかとおもうと数メートル先のギンネム葉上に静止する。ゆっくりと開閉し始めた翅表の紋は紛れもないマルバネルリマダラ♂。オモト林道でもそうであったように予期しないマルバネルリマダラの出現にまたしても Video 記録よりもネットが先に出てしまう。展翅時に羽を広げて初めて翅表に鋭く刻み込まれた傷のあることに気づいたが、鳥などに追われブッシュの枯れ枝などの間をすり抜けた際についた傷跡だと思われる。

